－JICAだより－

ブラジルからの活動紹介②
～ブラジル生活～

今回は、私がブラジルで一番気に入っている、ブラジル国民の定番ランチをご紹介します。それは「ポルキロ（意味：キログラムあたり）」と呼ばれる、食べた量だけ料金を払うビュッフェ形式のレストランのことです。ブラジルのフードコートや街中には必ずある、ポルキロレストラン。この何が良いかと言うと、その時の自分の空腹具合に合わせて取れること、そしてブラジルの代表食シュラスコ（ブラジル版バーベキュー）のお肉も食べられることです。「何か軽く食べたいな～」「食事に行くけど相手の好みが分からない」そんな時に間違いないのがポルキロです！

そして、ブラジルのレストランで驚いたこと。それは、ブラジルでお水や炭酸水を頼む時、必ず「氷やレモンはほしい？」と聞かれるんです。何だろうと思ったら、実は、サービスでレモンの輪切りかレモンの絞り汁が付いてくるんです！ぜひブラジルにお越しの際は試してみてくださいね。

ポルキロレストラン

炭酸水がレモン
スカッシュに！

ブラジルからの活動紹介③
～ブラジルの日本語学校～

今回は、私が活動している日本語学校についてご紹介します。

早速ですが、みなさんは日本語学校ってどんなところだと思いますか？私は、ブラジルに来るまで、日本語学校は「外国人が日本語を勉強するところ」というイメージでした。

実は、ブラジルの日本語学校はちょっと違います。約110年前に日本から移住して来た日本人が、たとえブラジルに住んでいても日本語や日本文化を忘れてほしくない、日本人・日系人であることに"誇り"を持ってほしい、という強い思いを持って作った学校なんです。そのため、元々は"日系人のための日本語学校"でした。ですが、日系社会でも世代が変わっていくにつれてポルトガル語化が進み、日本語学校は少しずつ変化し、現在の生徒は日系人だけでなく、ブラジル人もたくさんいます。そんな歴史のあるブラジルの日本語学校で、私は日本語や日本語文化を伝える活動をしています。

地球の裏側ブラジルには、たくさんの日本が大好きな日系人やブラジル人がいて、多くの人が日本に行くことを夢見ています。もしかしたら、皆さんの近くにいる日系人やブラジル人はその夢を叶えた人たちかもしれません。ぜひ、ブラジルのこと、日本での生活のことを聞いてみてください。何か新しい発見があるかもしれません。

このコラムが皆さんの新しい発見のきっかけになることを祈って、執筆させていただきました。お読みいただきありがとうございました。

（JICA日系社会ボランティア　近藤ゆみ）

法人会員様のご紹介
～23団体の皆さまに応援いただいています～

- ショット日本株式会社
- 有限会社池本煙火店
- 株式会社滋賀銀行水口支店
- セントラルフジイ株式会社
- 大阪ウエルディング工業株式会社
- 株式会社エルム測建
- 河芳工務店
- 株式会社かもしかリゾート
- 株式会社片淵建築事務所
- 株式会社テクノミツボシ
- 株式会社水口テクノス
- 大原薬品工業株式会社
- 社会福祉法人近江和順会
- 平和発條株式会社
- リースキン京滋
- 日新製薬株式会社
- 滋賀京栄株式会社
- 甲賀協同ガス株式会社
- 水口センチュリーホテル株式会社
- 有限会社ミヤコカッター
- 学校法人森島学園甲南幼稚園
- 株式会社日立建機ティエラ
- 一般社団法人甲賀市観光まちづくり協会

※（順不同、敬称略）

いつもありがとうございます

Together

◆つらい毎日ですね。これまで普通にできていた活動が、実はすごく特別な時間だったということを実感しています。
◆先日最終回を迎えた朝ドラ「スカーレット」の中に「いつもと変わらない１日は特別な１日」という言葉がありました。
◆こんな時だからこそ、いつもと変わらない１日を過ごせることの意味を思い、その日そのとき、その人と過ごす１日を大切に、ともに事態の収束緩和を願いましょう。（H）

甲賀市国際交流協会　事務局　〒528-0005　甲賀市水口町水口6053　甲賀市役所　別館2階
TEL：0748-63-8728　FAX：0748-70-6468　月～金9：00～17：30

甲賀市国際交流協会広報部
TEL:0748-63-8728 FAX:0748-70-6468
Email: mifa@mx.biwa.ne.jp
URL: https://kis-koka.org

第52号 KIS通信

2019年度災害時の外国人支援研修

2/22(土)　多言語支援センター設置運営訓練には73名の方が参加

三雲まちづくりセンターにて、滋賀県・甲賀市・湖南市と各国際（交流）協会が合同で訓練を実施、関連内容の講義や取組み事例紹介の後、センター立上げから避難所巡回までの作業をタイムラインで行いました。避難所では、ボランティアがまず「やさしい日本語」で、次に通訳者や翻訳アプリを使って多言語で情報伝達収集を行いました。

研修・訓練の様子

避難者への生活情報などの伝達に集中し、基本的な多言語支援センターの連絡先伝達や避難所全体の情報確認が抜けているなど、やるべきこと全体の認識不足が指摘され、主体的な取り組みの弱さを痛感しました。

外国人向け防災教室には22名が参加

「地震大国」日本に住む外国人の中には、地震がほとんど起こらない国から来ている人もたくさんいます。今回の防災教室では、過去の地震災害を振り返りながら、地震が起きたらどうなるか？そのときどうするか？イラストや写真、やさしい日本語を使って学びました。

ランチにはアルファ米防災食も試食。講座のあと、地震に備えて家具の転倒防止対策や非常食の準備、ちゃんとしたかな…。

防災教室の様子

～災害福祉講演会～災害にも強い地域づくり～　(2/11)

甲賀市災害福祉ネットワーク委員会、(福)甲賀市社協主催で、あいの土山文化ホールにて、336人の参加者のもと、福祉の視点で取り組む防災の講演会が開催されました。

１部では、基調講演「これだけは知っておきたい防災対策のイロハ」と題し、佛教大学の後藤至功氏が風水害・地震対策の基本、地域での日常の取組み等先進地の事例を紹介しながら講演いただきました。

２部では、委員長の中島仁史氏から「平常時の取組み紹介」と題して市内地域の取組みや、当交流協会の取り組みを含む「活動事例集！」の紹介当交流協会の取り組みを、及び中島教芳氏から「災害時の取組み紹介」と題し、25年に亘る災害ボランティア活動から学んだことを発表されました。

57％のアンケート回答者から建設的な意見があり、行政、地域、当協会、医療、福祉機関等との連携の強化、個人情報の問題の克服等が課題となりました。

日　本　語　教　室

当協会では、日本語を母語としない外国人のための日本語教室を開催しています。土曜日の夜は「にんじゃ日本語教室」のボランティアの皆さんに、月曜日の昼は「日本語学習支援グループ虹」の皆さんの献身的な活動により実施していただき、のべ930人(2019年4月～12月)もの学習者が日本語を学びました。

土曜日の日本語教室は、ベトナムやインドネシア、タイなどから来日した技能実習生が多く、月曜日の日本語教室は、永住者・定住者の日系の方が比較的多く、学習者の国籍や在留資格、学習の目的なども多様化してきました。また、学習者にとって日本語教室は日本語を学習するだけの場ではなく、同郷の人たちと出会い、交流し、安心して生活するための情報を収集する場にもなっています。

(昼)日本語学習支援グループ虹のようす

しかし、回を重ねるごとに学習希望者が増える一方、日本語学習支援者が不足している状態は続いており、今後は、日本語ボランティアの育成や新たな日本語教室の開設なども課題となっています。

日本語ボランティアに関心のある方は、当協会が開催する「日本語ボランティア養成講座」などを受講していただき、ぜひ、一緒に活動しませんか。

(夜)にんじゃ日本語教室のようす

「にんじゃ」日本語教室　節分パーティー　2/2(日)

今年のにんじゃ日本語教室のスタートは、節分パーティー！豆まきをし、恵方巻を食べ、豆運びゲームや福笑いなど、日本の文化に触れる楽しい時間になりました。その後、コロナウイルスの影響で教室は開催できなくなってしまいましたが、みんなと会える日を楽しみに…。

「鬼は外　福は内」きっといいことあるはず。

BNN外国人によるスピーチコンテスト 2/16

２月16日（日）に開催されました「びわこ日本語ネットワーク主催　第16回外国人による日本語スピーチ大会」において　ヌアンウィラット　パナワットさんが最優秀賞である滋賀県知事賞を受賞されました。パナワットさんは市内の企業に勤務されていて、土曜日の夜の「にんじゃ日本語教室」に参加されています。

日本語ボランティア養成講座　第1回目

2月8日（土）、浜田麻里氏(京都教育大学教授)を講師に迎え、日本語ボランティア養成講座を開催しました。日本語学習支援に対する関心が高まっていることから、受講者も定員に達し、会場となった別館の会議室は熱気に包まれました。

あいにく、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、第３回～６回の講座は延期となりましたが、協会が開催する日本語教室で活動していただける方が増えるよう、できるだけ早く開催時期を決めたいと考えています。

２月は受講できなかったけれど、時期が変われば受講したいという方は、お知らせください。

グローバルセミナー「外国につながる子どもたちとともに拓く地域の未来」　2/23(日)

外国にルーツを持つ子どもたちの教育の現状と将来への取組みを考えるセミナーを開催しました。新型コロナウィルスの影響で参加者が少なかったのですが、関係各所の方々が参加されていて有意義な時間となりました。

外国につながる子どもたちの問題は20年以上前から始まっていますが十分な施策、対応がなされていない現状が続いています。子どもたちの将来を夢あるものにするには地域の役割が大きく、地域、教育現場、行政、関係団体がネットワークを組むことが今後の課題となっています。

外国人つながる子ども学習サポート　12/28・1/4・2/1・2/15

もっともっと勉強したい。いろんなことを知りたい。でも、母語が日本語でないため、１人で学習を進めるのが難しい。そばにいてちょっとだけサポートしてくれる人がいればどんどん学んでいけるのに。そのちょっとだけのサポートがないだけで学習することをあきらめ、夢をあきらめそうになっている子どもたちがいます。そんな子どもたちに寄り添ってあげたいと思って活動しています。

2020/1/10（金）～1/18（土）中学生国際交流事業ミシガン3都市派遣
甲賀市の中学生21名と引率者7名がアメリカミシガン州3都市（デウィット・トラバースシティ・マーシャル）の姉妹都市を訪問しました。

1/28（火）中学生交流事業ミシガン3都市派遣報告会

～生徒の感想（たくさんの感想の中から抜粋）～

●教科書は学校にあり共通で使用！　●教科も自分で選べる！　●アメリカの学校ではスマホ持ち込み驚き　●男女がフレンドリー　●言葉が通じるほうが良かった　●困ったことは英語が通じなかった　●お別れの時、英語がちゃんと通じず話せなかったので、次くる時は話せるようになりたい　●ホストファミリーの英語が一番わかりやすかった　●もっと単語を覚えていたら良かった、次の日から単語を聞くようにしたらなんとなくわかった　●言葉が通じなくても気持ちが伝わったが、でもやっぱり言葉が通じたら良かったと思った　●日本の学校へ戻ったら　言葉が通じたらもっと良かったということを伝えたいと思った　●ホストファミリーは仲良かった　●アメリカは1階建てで　広かった　●驚いたこと　家が広かった　2階と地下　ガレージ大きかった　●お風呂はシャワーのみ！　●家がとても大きくて　僕の家は小さすぎるのではないかと思った　●ホストファミリーの家で犬を飼っていた犬が懐かなかったので怖かったが、最後の夜は、ひざにのってきて嬉しかった　●イメージではハンバーグが多いのかと思ったらチーズが多かった　●家が全部ふわふわのマットで初日に雨で靴がびしょびしょなのに、入った。　次の日は靴下でその上を歩いたので　びっくりした　●ホームパーティーが1番楽しみでした。まだ、しゃべったことが無い人ともしゃべれた　●沢山の人と仲良くなった　●街の雰囲気が好きで　テンションがあがった　●この交流をいかして、いろいろな事にチャレンジしたい　●甲賀市に来られた時には、困っていたら自分から助けたい　●このプログラムは　私を大きく成長させてくれた。

※2月末にミシガンの中学生を迎える予定でしたが新型コロナウィルスが世界中に蔓延していることから、受け入れは延期になりました。